

保土ヶ谷

ほっとなまちづくり

事例集



「保土ヶ谷ほっとなまちづくり」とは？

保土ヶ谷区の様々な人や団体が、つながり支えあうことで、安心していきいきと暮らせる地域にしていこうとする、「保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の愛称です。

区民の皆さんや関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが共通の目標を持って、取組を進めています。

(9～10ページで「保土ヶ谷ほっとなまちづくり」の詳しい説明をしています。)

本冊子では、保土ヶ谷区内で行われている取組の中で特に知っていただきたい取組を、2つの視点から、特集を組んでご紹介します。

一つは、身近な地域の課題解決に向けて様々な団体が話し合い、実践している取組。

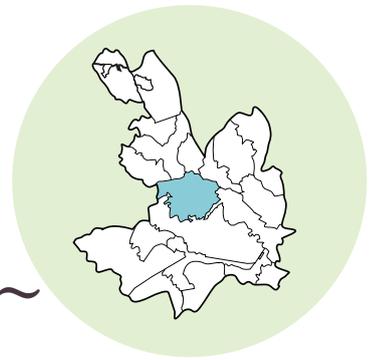
もう一つは、担い手づくりといった、区全体の大きなテーマに新たな展開を見せた取組です。

また、そのほかにも、「見守り・支えあい」「いきいき健康」「担い手づくり・情報」の3つのテーマに基づき、第3期計画(平成28年度スタート)以降、新たに始まった取組や、工夫が加えられ充実した取組をご紹介します。



解決につながる！地区懇談会

～地域のみんなを対象に 地域のみんなが進めよう～



保土ヶ谷ほとなまちづくりは、「地域のみんなを対象に 地域のみんなが進めよう」を大切にする視点として掲げています。

仏向地区の取組は、この視点を大切にして、子ども、高齢、障害、健康づくり、趣味活動など様々な分野で活動する人が参加することで、課題解決の相乗効果が生まれています。

ここがポイント！

- 地域の様々な立場の人がほとなまちづくりに参加
- それぞれの抱える課題を、タイアップ企画で具体的に解決

仏向地区の地区懇談会はこんな感じ♪

仏向地区の計画を中心となって進めている「仏向ほとなまちづくり実行委員会」では、地域で様々な立場で活動する人たちに呼びかけて、地区懇談会※1を年1回開催しています。

司会進行は仏向地区を隔から隔まで知る仏向地域ケアプラザ。BGMが流れる中、グループごとにテーマに沿った話し合いを行い、全体でその結果を共有。

お互いの活動や悩みごとを知り、一緒に考えることで地域全体の一体感が生まれていきます。



【参加団体一覧】(平成29年度/平成30年度 順不同)

- ・地区連合町内会 ・地区社会福祉協議会※2
- ・地区民生委員児童委員協議会 ・青少年指導員
- ・スポーツ推進委員 ・保健活動推進員
- ・食生活等改善推進員 ・各自治会町内会子ども会
- ・更生保護女性会 ・清水医院
- ・小中学校校長、PTA ・障害者施設 夢21上星川
- ・高齢者施設 陽だまりの丘横浜保土ヶ谷、
- ・メープル仏向館 ・認知症キャラバンメイト
- ・BHL卓球クラブ ・ほどがやパソボラ
- ・仏向男の料理倶楽部 ・木彫り趣味の会
- ・仏向の森コーヒー

【仏向地区支援チーム※3】

- ・仏向地域ケアプラザ
- ・保土ヶ谷区社会福祉協議会
- ・保土ヶ谷区役所

課題解決の糸口が見つかった！

平成29年度の地区懇談会では、地域の活動団体がそれぞれの「夢や理想、困りごと」を共有するグループワークを行い、各団体の「困りごと」に対して、お互いにお手伝いできることや解決策のアイデア出しを行いました。

平成30年度は更に一歩進めて、平成29年度の地区懇談会で挙げられた課題を集約し、①担い手・後継者不足、②活動の場が少ない、③参加者が少ないという課題に対して、他の団体とタイアップすることで解決できそうなことがないか、地区全体で取り組めそうなことはないかといった検討を行いました。

複数の団体が連携して取り組むことで、お互いの抱える別々の課題を一気に解決できる、そんな糸口が見えてきました。



活動場所がない…

➡ 「仏向フェスタ」で つながり強化！

保健活動推進員や食生活等改善推進員の方々は、活動場所が見つげにくい…という悩みがあり、自治会町内会などとのつながりを一層強める必要がありました。

そこで、ほっとなまちづくり実行委員会が地域の様々な団体と一緒に毎年実施している「仏向フェスタ」というお祭りに出店してもらうことで、地域とのつながりを持てるように工夫しました。



仏向フェスタでは、出店している団体は胸に様々な色の花をつけます。来場者は花をつけた人にどんな活動をしているのかを聞いてシールをもらい、シールが全部揃うと会場で使えるチケットがプレゼントされるという仕組み。

地域住民に対して各団体の活動のPRもできるというユニークな取組です。



子ども達の登下校の心配

➡ 玄関先に立つだけボランティア

子ども達の登下校時の見守りが少ないことが、仏向小学校のPTA役員の方々の心配ごとでした。

地区懇談会では、手の空いている人が登下校の時間帯に、玄関先にちょっと立っているだけでも見守りになるという提案があり、これを地域全体で取り組んでみよう！ということになりました。



担い手も参加者も少ない…

➡ タイアップで解決！

担い手・参加者ともに少ないという共通の課題を抱えた3つの団体(スポーツ推進委員、青少年指導員、子ども会)。

それぞれが行っている事業を共催することにより、もっといいものが出るはず！ということで、年1回、3つの団体が顔を合わせ、打合せの機会を持つことになりました。

- ※1 地区懇談会…地区によって違いがありますが、ほっとなまちづくりでは、定例的な話合いのほかに、地域に住んでいるより多くの人たちが集まって意見を出し合うということを行っています。そうした場を「地区懇談会」などの名称で呼んでいます。
- ※2 地区社会福祉協議会…地域住民に最も身近な社会福祉協議会として、自治会町内会、民生委員・児童委員、主任児童委員、ボランティア、老人クラブ、子ども会、福祉施設など、様々な方が集まり、共通の目標を持ちながら地域の特性を生かした福祉活動を実施している任意の団体です。
- ※3 地区支援チーム…地区ごとに、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の職員で「地区支援チーム」を結成し、地区別計画の推進をサポートしています。
また、地区支援チームのサポートの1つとして、地域の話合いの場に、その地域の課題に合ったアドバイザーを派遣し、専門家の立場から地区別計画の推進を支援する制度があります。



新たな地域の担い手が ぞくぞく参加

～趣味や特技を生かして 地域課題をみんなで解決～

アンケート調査をきっかけに始まる 新たな仲間と新たな取組

保土ヶ谷地区では、ほっとなまちづくりの計画に掲げた様々な取組を進めていくためには、今の地域活動の担い手だけでなく、「これからの保土ヶ谷地区を支える若い世代と一緒に地域づくりを考えたい」という想いを持っていました。

そこで、地域活動への協力者を探すことを目的に、平成28年度に保土ヶ谷地区の全世帯を対象としたアンケート調査を行いました。

趣味や特技、これからやってみたいこと等を聞き、また、地域活動に関心があり、手伝ってもいいよ！という方には連絡先を記入してもらったところ、88名の方が名乗り出てくれました。

連絡先を書いてくれた方たちに呼びかけ、「交流の会」を開催。地域の課題や今後について、意見交換を重ね、地区として①ボランティア登録の仕組み、②生活の困りごとに応えるボランティア活動の立ち上げ、③子どもから高齢者までが集える「みんなの食堂」の検討が始まっています。

ここがポイント！

- 地域づくりに参加する新たな仲間が増加
- 地域住民の趣味や特技を生かした活動を展開
- 個々の生活の困りごとに対応した取組を実施



活発な意見が飛び交う交流の会

- ★子育て中のお母さん、40代の働き世代、定年退職後のお父さんなども参加。
- ★それぞれに趣味や特技を生かして、地域のために何ができるかを話し合いました。



高齢者も外に出る機会がないと閉じこもりになりがち。**高齢者も子どもも集える場**があるといいな。

電気工事の資格を持っているので、**簡単な修理**くらいなら出来るよ。

草むしり、電球交換、ごみ出し、**生活の困りごと**に応えるような**ボランティア活動**ができるといいな。

肩こり等を自分で治す**セルフケアの方法**を地域の方々に**教えたい**。地域の人たちの**健康につながる取組**がしたい。

家の近くで**子ども達が何かを体験できたり、発散できるような場**があるといいな。囲碁や将棋、お菓子作りや手芸を地域の**大人に教えてもらえる**といいな。

それぞれ楽器を持ち寄って、**参加型の音楽会**ができたらいいな～。

子ども食堂がやりたい。高齢者も子どもも孤立しがち。**皆がつながれる場**にしたい。

今回の取組の仕掛け人に聞きました

— アンケート調査をしたり、交流の会を開いたり、かなり大変なことだと思いますが、一歩踏み出したのはどうしてですか？

大井) 何年も前から地域のニーズを捉えるべきだと考えてました。でも、全戸配布のアンケートまでは思っていなかったですね。



左から地区社会福祉協議会会長の鈴木さん、ほつとなまちづくり実行委員長の高橋さん、地区民生委員児童委員協議会会長の大井さん

高橋) 地区の計画を立てる時に、地図を広げて、ほつとなまちづくりのキーワードを探す作業をして計画を作ったのですが、どこかで、やりたいと思っている人の自己満足の部分があるので、一般の人の意識を知ることが大切だと思っていました。



鈴木) 自治会活動は役員をしてくれる人がいなくなり、先々潰れてしまうのでは？という危機感があつたんです。自治会が無くなると地域のことを考えていくことができなくなると思っていたので、地区社会福祉協議会で担い手探しにつながるアンケートをやるとなった時には、「大変だけど、是非やってみたい」と思いました。

高橋) アンケート調査はノウハウが全くなかったですが、地区支援チーム(P2※3)の支援があつたので何とかできました。また、アドバイザー(P2※3)の方から先駆的な他地区の取組の情報を聞いて、プラス思考で考えられるようになりました。

— 今後の保土ヶ谷地区の展望や夢は？



高橋) 若い人も含めて、まちのことを考える人が増えるのが理想。自分も現役の時は回覧板も見ないような生活でした。高齢者の困りごとと言っても実感がなかった。いろいろなことをやりながら、若い人も地域の現状を知り、関心を持つ人を増やしていきたいと思っています。

大井) 向こう三軒両隣、自分の周りの人同士で助け合える雰囲気を作りたいんです。災害があつた時に田舎だと助け合えるが、都会でそれができないと大変なことになると思います。



鈴木) 自分が高齢者に近づいてきた時に、孤独感に打ちひしがれたような生き方は悲しいと思っています。

その年代になった時に、地域の中につながりが出来ていて、安心して住みやすい地域になっているといいな、と思います。

そのために、今のうちにタネを蒔いているんです。今の若い子たちにも地区や自治会の活動を知ってもらって、大きくなった時に思い出してくれたらいいな、と思っています。

中央東部

地区

「ほっとなサロン」で楽しみながら認知症のサポートと予防 &健康寿命を延ばそう！ ～みんなで作りあげる集いの場～

地域の高齢化が進む中で、地域の方々の「みんなが楽しく集うことができ、認知症の方が参加できて、予防もできる場を開こう！」という熱い思いから、「ほっとなサロン」が生まれました。平成28～29年度にかけて地区社会福祉協議会(P2※2)を中心に話し合いを重ね、内容を練り上げていきました。その中では、まちの暮らしが分かるような地域情報を地図に落とし、まちを歩いて**地域の現状とサロンの必要性を確認**し合ったり、他地区のサロンを見学したりしました。また、アドバイザー(P2※3)から教わった地域活動のノウハウや「**小さく楽しく始めては**」といった後押しにより、検討は加速。平成30年3月、ついに「ほっとなサロン」がスタートしました。(月1回開催)

このサロンには、「誰でも参加できる会に」「続けながら検討し、どんな形にでもなっていけるように」「参加者が自主的に関われる内容に」という思いがあります。手伝いたいという方も現れ、担い手づくりにもつながっています。毎回終了後には、課題や内容を検討。どんな風にしたら担い手も参加者も楽しめるか、回を重ねるごとに新しい工夫やアイデアが活かされています。



コーヒープレイク、カラオケ、毎回最後にはみんなで体操！



保土ヶ谷

南部

地区

ティーサロン&まち歩き ～誰でも気軽に参加できる交流の場づくり～

地域の方々が集まる場で、「歴史があるまちという特性を生かしたい」「イベントを催して住民同士が顔見知りになれると良い」といった意見が多く出されたことがきっかけとなり、平成28年度からティーサロン&まち歩きを開催しています。

会場を1カ所に固定してしまうと、参加しやすい人に偏りが出てしまうので、地区内の自治会館を順番に会場にすることで、**地区全体の住民が参加しやすいように工夫**しています。それぞれの自治会の協力も得ながら、各回の担当者が中心となって企画・運営を行っています。



まち歩きのコースを地図で確認



お茶を飲みながらの歓談
(ティーサロン)を楽しむ様子



さらに企画段階では、参加者目線で実際にまち歩きのコースを下見したり、歴史を紹介する資料を作成したり、**企画者側も楽しみながら行うこと**を大切にしています。企画の中身は、「**歴史・まち歩き・ティーサロン**」の3つを共通テーマに設定しつつ、各回の開催スタイルは自由なので、毎回違った特色もあります。今後も、誰でも気軽に参加できる交流の場づくりを進めていきます。



子育てサロン「おひさま」 ～身近な地域で親子が集える場～

親子が近くで集える場が欲しいという地域の想いから、平成29年に子育てサロンを立ち上げることとなりました。

立ち上げ準備期には、数か所の子育てサロンの見学に行きました。エリア別子育て支援連絡会で、保育士にお勧めの遊びを聞いたり、子育て支援拠点こっころで道具を借りられることがわかりました。毎月のテーマや内容には悩むこともあります。日頃の活動や会議等でもアンテナを高くして、様々な情報を得て、参加者に楽しく、継続的に来てもらえるような工夫をしています。また、区全体の主任児童委員定例会にて、他地区のサロンがどのようなことをしているのか知りたいと提案したことで、毎月、各地区のサロン紹介をすることになり、区全体でも情報交換ができるようになりました。



みんなで手遊び歌をしたり、子どもたちとママたちの交流の場となっています！

サロンの参加者の多くが、これまでは他地区のサロンまで出掛けていたと聞き、身近な場所に集える場所があることの重要性を感じています。



「サロン」とは

地域住民が定期的に気軽に集える場で、仲間づくりや健康づくり等をするための活動です。サロンを通じて様々な情報を得ることができたり、住民同士の見守りにもつながったりします。年齢を問わず誰でも参加できるサロンも各地区で開催されています。



コラム

地域の情報発信

区内の地区社会福祉協議会では、ほぼ全地区で定期的に広報紙を発行しています。こんなに広報紙があるのは市内でも珍しいことです。



地区ごとのセンスが光る広報紙の数々

デジタルを活用した情報発信術！

上管田地区では、連合自治会と地区社会福祉協議会が協力して、ホームページを作成。地域で行う行事のお知らせや取組報告などを行っています。スマホページ有！



常盤台地区では、ホームページのほか、ブログを使って様々な取組報告をしています。



地域のお困りごとをサポートするボランティア『ありが隊』の活動もウェブ発信中！

区全域にわたる取組

区全域を対象に行われている、自助・共助の取組を支援する事業の一部を紹介します。

担い手
づくり

情報



「Next Stage」
平成28年度作成版(左)
平成29年度作成概要版(右)



平成30年3月
ほっとなまちづくり講演会
講師:堀尾正明氏
(フリーアナウンサー)

【地域でいきいきと暮らすためのきっかけづくり】

身近な地域の活動を知り、興味や関心を高めていただくための取組を進めています。平成28年度には定年退職をはじめとして、新しい生活に移る年代の方々を対象に、地域の中で楽しく過ごすきっかけとなるよう、区内公共施設の案内を中心とした冊子「Next Stage」を作成しました。また平成29年度には、地域の中で活躍してみたい方々の後押しとなるよう、ご近所の底力をテーマに講演会を実施しました。

問合せ 福祉保健課(☎334-6311)

担い手
づくり

情報



講座を組み立てる
ポイントを学ぶ
受講者の皆さん。
仲間と学びあうって
楽しい!

【はぐくみプロジェクト】

区民が地域に関心を持ち、地域活動に参加する機会を促進する事業を進めています。「はぐくみ塾」では、地域の中で仲間を見つけて、グループ運営の手法や講座づくりのノウハウを学び、企画実施する力を身につけることができます。

問合せ 地域振興課(☎334-6308)

担い手
づくり

情報



平成29年度実施
まちの成り立ちに
ついでの講義風景

【ほどがや楽考】

まち歩きや施設見学、地域で活動している方々の経験談、グループディスカッションを通して、人や地域とつながるコミュニケーションの方法や地域活動の糸口を共に考え学ぶ場として、年6回の連続講座を実施しています。

問合せ 区政推進課(☎334-6380)

見守り

支えあい



平成29年6月
保土ヶ谷スポーツセンター
「にこやかほがらか
親子の広場」
202組421人の親子に
ご参加いただきました。

【ほどがや happy 子育て】

安心して子育てできるまち保土ヶ谷を推進するため、妊娠期から就学前まで、トータルで子育てをサポートする事業です。保育園や地域子育て支援拠点こっころなどの関係機関と協働し、様々な取組を実施しています。

問合せ こども家庭支援課(☎334-6297)

見守り

支えあい



「みんなの食堂」では、
お揃いののぼり旗を
掲げて皆さんの
お越しをお待ち
しています。

【みんな de 食堂懇談会】

子どもから高齢者まで誰もが集える「みんなの食堂」の取組が、区内のあちこちで始まっています。運営している方やお手伝いしたい方が集まり、情報交換や話し合いを行う懇談会を実施しています。

問合せ 区社会福祉協議会(☎341-9876)

見守り

支えあい



【フードバンク】

地元の企業などから寄贈された食品や、地域のイベントなどで寄付を募って集めた食品をお預かりし、生活に困窮した世帯への支援や、区内のみんなの食堂で活用しています。

問合せ 区社会福祉協議会(☎341-9876)

見守り

支えあい



養成講座の様子

【認知症まもりネットワーク】

認知症の方とその家族を、地域全体で見守るネットワークづくりを進めています。認知症サポーター（認知症の正しい知識をもって、地域の中で手助けする応援者）養成講座の開催など、様々な活動が行われています。

問合せ 高齢・障害支援課(☎334-6328)

いきいき健康



平成29年11月
天王町公園
星川地域ケアプラザによる、ほどウォーク。体を温め準備運動をして、さあウォーキングに出発です。

【ほどウォーク事業】

身近な地域で、健康づくりに継続的に取り組むとともに、暮らしの中にウォーキングが定着することを目的とし、平成28・29年度に実施。地域ケアプラザ、保健活動推進員、地域住民が協力して企画を進めました。

問合せ 福祉保健課(☎334-6344)

いきいき健康



【きらり☆シニア塾】

平成24年度より高齢者が介護予防や健康づくりの活動ができる場を「きらり☆シニア塾」と認定し、身近な地域での居場所づくりに取り組んでいます。

問合せ 高齢・障害支援課(☎334-6328)

コラム

地域包括ケアシステムの構築に向けて

地域包括ケアシステムとは、団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、高齢者が、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていけるよう、介護・医療・介護予防・生活支援・住まいが一体的に提供される、日常生活圏域ごとの包括的な支援・サービス提供体制のことです。

地域包括ケアシステムと「ほっとなまちづくり」は、ともに「つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや」の実現を目指すものです。地域包括ケアシステムの推進にあたっては、「ほっとなまちづくり」の策定・推進を通じて築いてきた地域との信頼関係や、様々な福祉保健活動といった財産を生かしながら、双方の取組を連動させて効果的に進めていきます。

また、平成28年4月から、各地域ケアプラザ・区社会福祉協議会に1名ずつ「生活支援コーディネーター」が配置されました。「生活支援コーディネーター」は、地域の方々と一緒に助けあいの仕組みづくりに取り組んでおり、高齢者の生活課題を解決する地域包括ケアシステムの構築において、重要な役割を担っています。



問合せ 高齢・障害支援課(☎334-6328)

保土ケ谷ほっとなまちづくり (地域福祉保健計画)について

近年、少子高齢化や核家族化が進み、家族だけでは解決できない課題が増えています。また、地域を取り巻く状況も大きく変化し、「地域のつながりが少なくなった」という声も聞かれます。保土ケ谷区でも、家族や近所に相談できる人がいない、異変に気付く人がいない、という状況が増えています。

こんな中、力を発揮するのは、地域のつながり・支えあいです。いつ起こるか分からない災害時を考えても、日頃から地域で助けあえる絆を深めておくことは重要です。

保土ケ谷区では、様々な人や団体がつながり支えあうことで、安心していきいきと暮らせる地域にしていくために、平成28年度から第3期保土ケ谷ほっとなまちづくり(地域福祉保健計画)を推進しています。

計画は、区全体の方針を示すとともに地区をまたぐ課題に取り組む「区全域計画」と、地区ごとに住民の皆さんが中心となって進める「地区別計画」(22の地区社会福祉協議会(P2※2)のエリアごと)から構成されています。この計画に基づいて区全体・各地区が、地域福祉保健推進の取組を進めていきます。

区民の皆さんや関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが共通の目標を持って、取組を進めています。



基本 理念

つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや

【大切にする視点】 地域のみんなを対象に／地域のみんなで進めよう

身近な地域の
つながりがあるからこそ、
気付けることが
あります。



サービスを使わなくても、
近所の方同士
「お互いさま」で
助けあえることもあります。



自分のことを
気にかけてくれる人がいる、
というだけでも、安心して
つながります。



励まし合える
仲間があると、
「健康づくり」も楽しく
続けやすくなります。



3つのテーマに沿った取組を進めて基本理念の実現を目指します。

1 見守り・支えあい

地域の誰も孤立しないよう、つながりをつくり、お互いに見守りあい、助けあえるような安心のまちを目指します。

2 いきいき健康

地域の誰もが身近に出かける場所があって、一緒に趣味を楽しんだり健康づくりの活動に参加できたりするような、心も身体も健康なまちを目指します。

3 担い手づくり・情報

地域の様々な取組を進めていくため、担い手の輪が広がるまち、必要な人に必要な情報がしっかり伝わるまちを目指します。



おわりに

各地区や区全域で行われている取組は、「つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや」を様々な方法で目指しているものです。

今回ご紹介した取組以外にも、保土ヶ谷区内では様々な方々・団体・機関が日々アイデアを凝らし、たくさんの取組を展開し、継続しています。

各地区の取組は、今後、保土ヶ谷ほっとなまちづくりフォーラム(保土ヶ谷区社会福祉大会)や広報よこはま区版などの機会も活用してご紹介していきます。

本冊子が、身近な地域の取組について広く知っていただく機会となるとともに、今後の地域活動のお役に立てれば幸いです。



保土ヶ谷 ほっとな まちづくり



第3期保土ヶ谷ほっとなまちづくり(保土ヶ谷区地域福祉保健計画)事例集 —平成30年11月発行—

【お問い合わせ】

保土ヶ谷区役所福祉保健課事業企画担当
〒240-0001
保土ヶ谷区川辺町2-9

TEL 045-334-6343

FAX 045-333-6309

E-mail ho-fukuho@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会
〒240-0001
保土ヶ谷区川辺町5-11かるがも3階

TEL 045-341-9876

FAX 045-334-5805

E-mail h@shakyohodogaya.jp

※区全域計画と地区別計画の詳細は、下記に配架している冊子や区ホームページをご覧ください。

ほっとなまちづくり

検索

配架施設：区福祉保健課、区広報相談係、区社会福祉協議会、区内地域ケアプラザなど